

笑顔いっぱい の学校

前 岡山市立芳泉小学校長

坂 根 清 貴



「いきいき わくわく 楽しい学校」これは、私の最後の勤務校である芳泉小学校の第八代校長の徳田公裕先生が示された目指す学校像である。十二代目となる私の代まで受け継がれているとともに、平成二十三年度赴任したとき、とても感銘を受けた学校像である。昭和五十三年、大学卒業後岡山市内の小学校に講師として赴任した。その時に出会った子どもたちがその後の私に大きな影響を与えた。それは、学校生活のそれぞれの場面で見せる子どもたちの笑顔でした。一緒に遊んでいるときの楽しそうな笑顔、昨日見たテレビの話題で盛り上がり楽しそうにおしゃべりしているときの笑顔、そして、友達とけんかをして泣いていた子が、先生にしかられて泣いていた子が、下校時のあいさつと一緒に見せてくれた笑顔、それらの笑顔に触れ、小学校教育のすばらしさを経験し、通信教育で小学校教諭の免許を取得し今の自分がある。

講師、行政機関を含めて三十八年間の勤務の内、最後十年間は、校長として三校の学校経営に携わらせていただいた。私が、それぞれの学校での学校づくりの基本に据えていたのは、私を小学校へ導いてくれたのが子どもたちの笑顔であったように、表題の「笑顔いっぱい」の学校である。満面の笑顔で子どもたちを指導する教職員、はじける笑顔で

学習や生活をする子どもたち、そのような学校を目指してきた。そして、最後の勤務地となった芳泉小学校で前述の学校像に出会った。これを見たとき「これだ」、私が目指そうとしている学校は正にこれだと、大きな衝撃と感動したことを今でもよく覚えている。

子どもたち一人一人が自己肯定感を持ち、いきいきと学習活動を行い、今日は学校で何があるだろう、先生は何を教えてくれるだろうとわくわくしながら登校し生活する子どもたち。全ての活動が充実した学校は、子どもたちにとって楽しい学校となり、笑顔がいっぱいの学校になるであろう。

しかし、現実には言うほどたやすいものではなく、困難なほうが多いが、全ての教職員とともに、無上の愛を持ってチームとして頑張ってきた。

これは、県下全ての校長先生方も同じであろう。昨年度、校長会の役員をさせて頂いたとき、多くの校長先生方と話しをする機会を得た。岡山県の抱える課題解決に向け、各校の実態に合わせた、様々な取り組みをしておられる現状に触れた。その成果も少しずつではあるが見えてきていると考える。

私は「笑顔いっぱい」の学校づくりが、学校の充実・発展への鍵であると信じている。